

～新年の森に お正月を探そう～



マンリョウ(万両)



センリョウ(千両)

No	標準和名	漢字表記	科	メモ
1	アカマツ	赤松	マツ	常盤木の代表
2	モウソウチク	孟宗竹	イネ	節のラインは一重⇄マダケ
3	ウメ	梅	バラ	
4	ビワ	枇杷	バラ	医者いらず
5	アズキナシ	小豆梨	バラ	「秤の目」模様
6	マンリョウ	万両	サクラソウ	
7	センリョウ	千両	センリョウ	
8	ナンテン	南天	メギ	難転
9	クロガネモチ	黒鉄騎	モチノキ	「金持ち」
10	ソヨゴ	冬青	モチノキ	フクラギ→福来木
11	サカキ	榊	サカキ	お供え
12	ヒサカキ	姫榊	サカキ	お供え
13	スタジイ	スタ椎	ブナ	
14	アラカシ	粗榿	ブナ	
15	クスノキ	樟	クスノキ	奇の木→薬
16	ニッケイ	肉桂	クスノキ	
17	ヤブニッケイ	藪肉桂	クスノキ	
18	ヒイラギ	柊	モクセイ	
19	タカノツメ	鷹の爪	ウコギ	
20	ネジキ	捻木	ツツジ	「塗り箸」一年枝
21	ウスノキ	臼の木	ツツジ	人気の冬芽
22	シャシャンボ	小小坊	ツツジ	ブルーベリー
23	ズミ	酢実	バラ	
24	ザイフリボク	采振木	バラ	「エリマキ」冬芽
25	コバノガマズミ	小葉莢迷	レンブクソウ	

次回は  
テーマ  
持ち物

2月12日(日) 9:30～  
～立春の森 いろんな冬芽を楽しもう～  
100均ので充分・・・ルーペがあるといいですね



新年からの挑戦!! …しぜんかんさつクイズ …その1…

A群の用語を、B群のこばを使って、説明してみてください。

A群

B群

① 冬鳥

② 冬芽

③ 対生(たいせい)

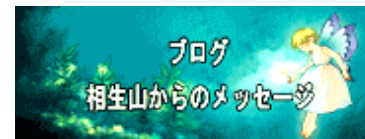
④ 鋸歯(きょし)

⑤ 常緑樹

・開花	・結実	・枝葉	・葉身
・繁殖地	・夏鳥	・亜熱帯	・東南アジア
・照葉樹	・夏緑樹	・暖帯	・落葉
・紅葉	・越冬	・芽鱗	・鱗芽
・光合成	・互生	・裸芽	・十文字
・コナラ	・アベマキ	・アカマツ	・アラカシ
・ヤマザクラ	・クスノキ	・ガマズミ	・ヒサカキ
・イボタノキ	・ヒイラギ	・ムラサキシキブ	・マンリョウ
・オオタカ	・ヒヨドリ	・ツグミ	・コゲラ
・キビタキ	・ジョウビタキ	・シベリヤ	・カラフト



相生山の最新情報は



自然と人のおつきあい 考えていきます  
応援よろしくお願ひします

連絡先(古川)

tell/fax : 052-821-6463

ケイタイ : 080-5124-6463

e-mail : viva\_forest@yahoo.co.jp

ホームページ : ラブリーアース → 検索

『森のひとり言』 by 北岡明彦 ラブリーアース ホームページより

### その参拾八：森の贈り物 縁起木（2）


江戸時代より、上級武家や大商人の庭に、好んで植えられてきた縁起木が2種類あります。それは、ユズリハとカシワです。

ユズリハは「譲り葉」で、冬を越した古い葉が、新しい葉の展開とともに落葉することから名付けられたと言われています。

もちろん、すべての常緑樹が新葉の展開とともに旧葉は落葉しますが、ユズリハは葉が大きくて目立つことから特別に名付けられたのでしよう。

万葉集にも登場します。

もう一種のカシワは、武家の庭でよく植えられました。本種は夏緑樹ですが、枯れ葉は樹上でそのまま冬を越し、春に新葉が伸び始めると同時に落葉します。古い葉（先代）があたかも新しい葉（次世代）を見守り、引き継いでいるように見えることから、順調な世代交替を象徴する縁起木になったものです。

花や実が美しい訳でもない、樹形が特別美しい訳でもない樹木を、その呼び名や性質から庭木として好んで植えてきた、日本人の心がなかなか興味深いですね。 



エゾユズリハ（♀）

### その参拾九：森の贈り物 縁起木（3）

比較的新しく縁起木として登場したのが、カシとカリンのコンビです。

もちろん、その心は「貸し借りん！」の語呂合わせで、人間関係が悪くならないように「お金があっても人に貸さない、お金がなくても人から借りない」ことを証して、2種類の樹木を植え、順調に財産を引き継ぐことを期待するものです。

カシ類なら種類は何でもよいのですが、一般的に庭園木として植えるのはシラカシかイチイガシです。

一時期流行した「棒ガシ（棒状に仕立てた檜）」はシラカシとアラカシを使うことが多く、関東地方では前者を、関西地方では後者を多く使います。棒ガシは生垣として多用されましたが、カシ類は成長が速く、10年もすると大木になって邪魔者扱いされることが多いようです。



シラカシ

一方、カリンは果実を果実酒にしたり、樹皮や実を楽しむために時々植えられますが、やはり大きくなって枝が邪魔になってしまいます。

このように、よほど大きな庭がある家以外では、カシ・カリンのコンビを植えることは、あまりお勧めできません。 